

第 66 回日本泌尿器科学会中部総会 男女共同参加う委員会共同プログラム 報告書

第 66 回日本泌尿器科学会中部総会

大会長：杉村 芳樹 教授 (三重大学)

会 期：2016 年 10 月 27 日 (木) ～29 日 (土)

会 場：四日市市文化会館

男女共同参画委員会共同プログラム

日時：10 月 29 日 (土) 14 時 30 分～15 時 30 分

泌尿器男性医師が語る”男たちから見た“男女共同参画と育ボスのススメ

演者 1：泌尿器女子を後輩にもつ (大垣市民病院泌尿器科・現ますえクリニック 増栄成泰先生)

演者 2：泌尿器女子を先輩にもつ (三重大学泌尿器科 長谷川嘉弘先生)

演者 3：育ボスのススメ (NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事 徳倉康之氏)

討論会：10～15 分

座長：小牧市民病院 吉川羊子、藤田保健衛生大学 佐々木ひと美

討論会

男女共同参画の壁と乗り越える方法について討論し、**Take home message** を作成した。

(参考資料)

「強化」「消去」「弱化」の3つの原理とは

第一は、「強化」である。ヒトは「ある行動をとった直後に良いことがあると、その行動をもっとするようになる」という原理である。

例えば、問題を抱えた部下が「上司に相談に行く」という行動をとった直後に、その上司が「笑顔で迎える」「問題が解決するようなアドバイスをする」といった対応をとれば、部下の「上司に相談に行く」という行動は「強化」されることになる。つまり、上司への相談が繰り返され、組織としての風通しが良くなるわけだ。逆に、良くない行動がいつまでも直らない「強化」の例が「タバコを吸う」という行動だ。タバコを吸った直後には、「ニコチンの禁断症状がなくなる」「開放感を味わえる」「休憩ができる」といった、その行動を「強化」する反応ばかりを感じてしまうため、なかなか止められない行動となる。このように、「強化」は行動の直後に良いことがあると、ヒトは「心地よさ」「苦しみからの解放」などを感じ、その行動を繰り返すという原理である。

次は、「消去」である。ヒトは「ある行動をとった直後に何も変わらないと、その行動を徐々にしなくなる」という原理である。

例えば、問題を抱えた部下が「上司に相談に行く」という行動をとった直後に、その上司が「無視する」「問題が解決しないようなアドバイスをする」といった対応をとれば、部下の「上司に相談に行く」という行動は「消去」されることになる。つまり、段々と「上司へ相談に行く」ことをしなくなり、組織には閉塞感が漂うことになる。また、行動が「消去」されればその行動は徐々になくなる、ということにも注意しておいた方がいい。

これまで「強化」が繰り返されていた行動をとったところ、いきなり「消去」されたら、その行動はどうなるだろうか。例えば、子どもが母親に「おかあさん」と呼びかけたところ、普段であれば「はい」と答える母親が、家事で忙しくて返答しなかった場合、無視されたと勘違いした子どもは段々切迫した声で「おかあさん、おかあさん」と呼ぶようになり、そのうち「おかあさん！」と大きな声で叫ぶようになる。それでも母親が返事をしないと、最後には諦めて声をかけなくなる。つまり、「消去」は最終的には行動を消してしまうが、はじめのうちは爆発的な行動を招いてしまう。これを「バースト」というが、聞き慣れた例では「逆境をバネにする」というのもその類のひとつである。

注意すべきは、「バースト」は、その前提として「強化」が繰り返しあったからこそ起こるという点だ。逆境をバネにして頑張れるヒトをつくりたければ、まず成功体験を十分に積みませ、行動を「強化」しておかなければならない。

最後は、「弱化」である。ヒトは「ある行動をとった直後に嫌なことがあると、その行動をしなくなる」という原理である。

例えば、問題を抱えた部下が「上司に相談に行く」という行動をとった直後に、その上司

が「睨みつける」「問題が複雑化するようなアドバイスをする」といった対応をとれば、部下の「上司に相談に行く」という行動は「弱化」されることになる。これによれば、直ちに行動がストップするから、「消去」よりも強烈である。具体的な活用場面としては、その行動を直ちに止めさせる必要のあるケースが想定されよう。例えば、「規則を破る」といった行動の直後に、「叱る」「罰する」といった対応をとれば、「規則を破る」という行動は「弱化」され、その行動は直ちに消失することになる。くれぐれも「消去」との使い分けには注意しなければならない。職場で、ハラスメントが起こっているときに、仮に「消去」という手法を使ってしまえば、これには「バースト」が起こり得るため、一時的にその行動がエスカレートする恐れがある。この場合は、確実に「弱化」を使って問題をこじらせない対応が肝心だ。

このように、行動分析学が提供する「強化」「消去」「弱化」というヒトの行動をコントロールできる 3 つの原理は、組織マネジメントに大いに活用できる。特に、部下を抱え、そのパフォーマンスを最大限発揮させる使命のある管理職には必須のマネジメントツールなのである